

心臓病友の会が開催されました

7月22日(土)の13時30分より、加古川中央市民病院となり第1回目の心臓病友の会を開催しました。『高血圧症について』『口腔と心臓病のかかわり～虫歯・歯槽膿漏を放っておくと大変なことになりますよ～』という、参加者の生活に身近な演題を準備し、それぞれ当院の循環器内科の白木医師と歯科口腔外科の橋医師が講演しました。また、質疑応答のコーナーでは、参加者の皆さんが講演会の内容に限らず、日々の生活の中で疑問に思われていることを積極的に講師に質問されていました。会員・非会員の方を合わせて約80名の方々にご参加いただき、盛況のうちに幕を閉じました。



講演会の様子



質疑応答の様子

地域連携主催 9・10月の研修案内

参加申し込みは随時受け付けておりますので、ぜひご参加ください。お申し込み方法はホームページをご覧ください。

開催概要	研修会名	テーマ	講師	対象
9月8日(金) 18:00～19:00 加古川中央市民病院 光ホール	専門・認定看護師 ワンポイント アドバイス	「よく聞く感染症について」	感染管理 認定看護師 藤井 佑子	●地域包括支援センター ●訪問看護ステーション ●居宅介護事業所 ●介護老人保健施設 ●市役所該当課
10月6日(金) 18:00～19:00 加古川中央市民病院 光ホール		「ストマ管理について」	皮膚・排泄ケア 認定看護師 橋本 円	●地域包括支援センター ●訪問看護ステーション ●居宅介護事業所 ●介護老人保健施設 ●市役所該当課
10月12日(木) 18:30～20:00 加古川中央市民病院 光ホール	医療連携検討会	●医療依存度のある患者さんの 在宅調整に関して (ターミナル患者の調整)	な し ●参加者の方には グループワークに ご参加いただきます	●診療所 ●回復期病院 ●療養型病院 ●訪問看護ステーション ●居宅介護事業所 ●介護老人保健施設 ●市役所該当課

患者支援センター地域連携室

予約専用 TEL.079-451-8651 / FAX.079-451-8653

その他 TEL.079-451-8652 / FAX.079-451-8654

http://www.kakohp.jp/medical_person/



き ら り

vol. 8
2017年8月

加古川市民病院機構 理念

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の健康を支え、頼られる病院であり続けます

時代と共に変化する役割



Contents

巻頭言 加古川中央市民病院開設1周年を迎えて	2
診療科紹介	3
《特集》薬剤部のご紹介	4-5
登録医紹介	6-7

連携室ニュース 8

巻頭言

加古川中央市民病院 開設1周年を迎えて

加古川市民病院機構 理事
加古川中央市民病院 副院長(兼)産婦人科 主任科部長



ばう まさ き
房 正規

昨年7月1日の中央市民病院開設から早くも1年が経過いたしました。

振り返りますと、地域の医療機関の皆様にご紹介いただけますよう、また患者さんにより安心して受診していただけますよう、常に改善に取り組んできた日々でした。現在は年度計画の目標である、紹介率70%、逆紹介率75%以上を維持できております。ひとえに地域の医療機関、介護施設の皆様のご理解とご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。

毎日続けております、夜間のご紹介患者さん、救急患者さんの受け入れ状況の検討など、これから新たにできることはすぐ実行するよう、大西理事長兼院長を先頭に、地域連携室と各部門の連携を保ち、取り組んでまいります。

さて私の所属する周産母子センターの産科、新生児科も、平素より母体外来紹介、母体救急搬送、新生児搬送で多くの患者さんをご紹介いただき、多忙な日々うれしい悲鳴を上げております。本当にありがとうございます。これは妊娠の高齢化に伴い、合併症をもつハイリスク妊娠の増加が著しいこともあり、30診療科を持つ総合病院という当院の特色に期待していただいているためと、考えております。さらに佐藤有美医師による胎児心エコー外来、圓尾文子医師を中心とした心臓血管外科小児部門も症例を重ねておりますので、ぜひとも今後ご紹介賜りますようお願いいたします。

開設2年目は、本年度のテーマとして掲げております、質(Quality)の向上を命題として、昨年産声をあげた加古川中央市民病院が、しっかりと立ち、歩く時期となります。地域の医療機関、介護施設の皆様からご紹介いただいた、高度急性期、急性期の診療を必要とする方々に、最新の医療を安全にご提供することで、より一層頼られる病院でありますよう職員一同努めてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

診療科紹介

皮膚科

眼科

皮膚科

当科は、皮膚科独自の皮膚疾患(例:アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、蕁麻疹、薬疹(アナフィラキシーや重症も含む)、水疱症、先天性or後天性炎症性角化症、脱毛症、皮膚感染症、皮膚腫瘍、皮膚リンパ腫)だけに対応するだけではなく、「皮膚は内臓の鏡」といいますように内臓疾患に伴う皮疹(例:膠原病・膠原病類似疾患、血管炎、糖尿病、慢性肝臓病、腎不全、妊娠などに伴う皮疹や小児の様々な皮膚疾患)にも対応しております。また当院歯科口腔外科と近隣歯科医の先生方と医科歯科連携することで、扁平苔癬、掌蹠膿疱症、全身型金属アレルギー(アトピー性皮膚炎に類似した症状)、舌痛症など金属アレルギーの関与が疑わしい疾患に対して金属パッチテストで精査しております(※月・水・木・月、あるいは火・木・金・火と来院可能かどうかを患者さんにもご相談いただいたうえでご紹介いただけましたら幸いです)。

現在2名で毎日午前の外来診療をしておりますが、待ち時間が長くなることもあり、紹介患者さんには大変ご迷惑をおかけすることもあります。しかし、きちんと精査、治療し診療の質を向上していくように日々診療にあたっておりますので、何卒その点をご理解いただけましたら幸いです。

なお2017年7月以降、山田は月・火・木・金の診療で、水は大学病院からの派遣医が診療となり、また病診連携枠は月・木・金が山田、火・水が川上に変更となります。



皮膚科 主任科部長
やま だ よう ぞう
山田 陽三



眼科 主任科部長
はら こ
原 ルミ子

加古川中央市民病院に統合され1年が経過しました。近隣の先生方から多くの症例をご紹介いただき、昨年は白内障1255件、緑内障43件、網膜硝子体223件、硝子体注射1048件、斜視手術35件といずれも神戸大学関連病院の中で1位、2位を誇る手術症例数となっております。これらのうち、網膜剥離に対する手術は60件を占めます。発症率が1人/1万人、当地区の人口が約35万人と考えますとこの地域は網膜剥離が多いのでしょうか？

さて、今年度は涙道内視鏡を導入いたしました。年齢とともに流涙(涙が溜まる)を訴える人が多くなります。これは眼表面の涙が鼻へと流れる排水溝(鼻涙管)が詰まるためです。鼻涙管内に内視鏡を挿入し、閉塞部位を確認、穿破、カテーテル留置といった治療で症状は劇的に改善します。閉塞部位によっては耳鼻科と協力し、鼻腔内から傷の見えない治療を行ってまいります。特にTS-1を内服中の患者さんは副作用で鼻涙管閉塞を来し、非常に難治となりますので早期の治療が必要です。

これからも急性期疾患を中心に積極的に治療を行い、近隣の先生方と良好な病診連携をとっていきたいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

眼科

時代と共に変化する役割

当院薬剤部は、常勤薬剤師35名に非常勤薬剤師1名を加えた計36名（育児休2名、産休2名含む）で構成され、一般病棟、ICU、HCU、NICU、手術室、患者支援センター、通院治療室のそれぞれに薬剤師を配置しています。1階医事会計の隣に部屋があり、そこでは主に入院患者さんの内服調剤、注射薬セット、TPNミキシング、院内製剤、麻薬管理業務などを行っています。また一般病棟のスタッフステーション奥には薬剤師スペースが、ICU、NICU、手術室には専用のサテライトファーマシーがあり、そこで様々な病棟薬剤業務を行っています。

さて、薬剤師の果たすべき役割ですが、時代と共に大きく変わって参りました。特に病院で働く薬剤師に一番求められていることは、薬物療法が安全に行われ、それが患者さんにとって最適の治療につながるよう、医療の質を向上させる役割を担うことです。

最初に患者支援センターでの薬

剤師の役割をご紹介します。入院することが決まった患者さんは入院前に患者支援センターに行っていただき様々な説明を受けますが、その際、そこに常駐する薬剤師が面談を行い、現在服用中の全てのお薬を確認しています。もしもその中に抗凝固薬、抗血小板薬などが含まれていますと手術中や検査中に止血困難のリスクが、逆に経口避妊薬などが含まれていますと血栓形成のリスクが生じてきますので、これらの服用を見つけた際は、予め取り決められたプロトコルに従って入院（手術、検査）の何日前からどの薬を休薬するのかを説明しています。また実際に入院して来られました際、再度、病棟担当薬剤師が薬の休薬が説明通りになされていたかどうかの確認をしています。こうすることによって患者さんが安心して手術や検査を受けられるよう、安全面から患者さんをサポートしています。

次に通院治療室（外来化学療法室）をご紹介します。最近では次々と新しいタイプの抗がん剤が日本でも使用できるようになってきましたが、高度な技術を駆使している分、使用方法も複雑で予期せぬ副作用のリスクも高まっています。ここでの薬剤師の役割は、プ

薬剤部 部長

いし ざか ただ ひろ
石坂 忠博



ロトコルに沿って薬の投与量や投与方法が正しく指示されているかの確認や、併用している内服抗がん剤があれば、それが正しく休薬されているかの確認を行っています。更に、患者さんに投与される点滴注射を無菌的に調製して感染リスクの低減にも努めています。また、初めて抗がん剤治療を受けられる場合や、途中で抗がん剤の種類が変わった際には、薬剤師が面談室で治療計画の内容や、日常生活で注意すべき点、予想される副作用とそれに対する予防法や対処法などについて詳しく説明しています。その際、治療に対する不安や悩みなどの相談を受けることもあります。このように通院治療室でも、患者さんが安心して抗がん剤治療を受けられるよう、患者さんを側面からサポートしています。

最後に一般病棟での病棟薬剤

業務を紹介いたします。患者さんが入院して来られますと、まずは病棟担当の薬剤師が初回面談を行い、持参された薬を全て調べて現在の服用状況から、重複投与や相互作用、副作用発現の有無を確認しています。その後、患者さんのベッドサイドに赴いて、服用方法や効能などを説明していますが、その際、患者さんが薬を服用しにくい時は、服用しやすい剤型への変更や錠剤の粉碎化、1包化などを主治医に提案しています。また予期せぬ副作用を見つけた際は直ちに主治医に報告し、期待通りの治療効果が得られていない時は処方書の提案を行うこともあります。

薬剤部ではこういった患者さんの治療への関与を、より綿密によりスムーズに行うために、様々なチーム医療にも積極的に参加しています。例えばICTやNST、心臓リハビリテーションチーム、緩和ケアチーム、糖尿病回診、褥瘡回診などがありますが、これらのチーム医療に

参加するにあたって、現在、抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定薬剤師、NST専門療法士、糖尿病療養指導士、リウマチ登録薬剤師、小児薬物療法認定薬剤師、漢方薬・生薬認定薬剤師、医療情報技師など様々な専門分野で認定や資格を取得しており、薬物治療の専門家としてより高度な関与ができるよう、日々研鑽しています。

これからも薬剤部は、“信頼される薬剤師”をモットーに、メンバー全員が更なる向上を目指しつつ、患者さんからもスタッフからも頼られる薬剤師、薬物療法に精通した薬剤師を目標に頑張って参ります。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



当院と連携いただいている登録医療機関をご紹介します。



前田内科医院

診療科 内科／消化器科

駐車場台数 15台

所在地 加古川市東神吉町神吉755-1

TEL. 079-432-8007



院長 前田 裕一郎 先生

旧加古川市民病院すぐ北の東神吉町神吉で開院いたしましてから早十数年が経ちました。その間、東西から中央になりましても変わらず地域からの信頼厚い市民病院には、急性期、慢性期を問わず紹介患者さんをいつも迅速かつ丁寧に診療していただき、大変ありがたく感謝いたしております。

当院は、糖尿病、高血圧、脂質異常症等の三大生活習慣病やその関連疾患、及び消化器疾患等を中心に内科一般の診療をいたしておりますが、世の高齢化の波はとどまるところを知らず、年齢を重ねられた患者さんの訴えも多岐にわたるようになってまいりました。益々病診連携の重要性を感じますと共に、スタッフ一同些細な訴えも聞き漏らすことのないように心がけ、また月並みですが気配

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	—
午後16:00～19:00	●	—	●	—	●	—	—

りを忘れず診療に努めております。

まだまだ微力ですが、病診連携を頼みの綱として少しでも地域医療に貢献できればと考えておりますので、これからも変わります。ご指導の程よろしくお願いいたします。



荒木皮フ科クリニック

診療科 皮膚科

駐車場台数 12台

所在地 加古川市西神吉町岸字溝尻100-11

TEL. 079-433-4112



院長 荒木 敬司 先生

JR宝殿駅より北西へ徒歩8分の場所に当院を開業させていただいてから14年目になりました。私自身も開業前に加古川市民病院(当時)の皮膚科初代医長として勤務していた事もあり、その後加古川西市民病院、加古川中央市民病院と名称が変わりましたが、現在も皮膚科、形成外科などを中心に患者さんをご紹介させていただいております。その際に中央市民病院の先生方には、お忙しい中いつも紹介患者さんに関する丁寧なご対応とお返事を賜り大変感謝いたしております。

皮膚科という診療科は「患者さんとの対話や視診」が治療の上で非常に重要です。そのため当院ではできるだけ細かく問診を行

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:30～12:00	●	●	●	—	●	●※	—
午後16:00～18:45	●	●	●	—	●	—	—

※土曜日のみ12:30まで受付

うと同時に、幅広い疾患に対応できる様にダーモスコープによる腫瘍診断、パッチテストなどの各種アレルギー検査や局麻下での小手術を行っております。ただどうしてもスペースやマンパワーの限界があり美容に関する治療はお断りしております。

今後ともよろしくお願いいたします。



小川皮膚科医院

診療科 皮膚科

駐車場台数 50台

所在地 加古川市平岡町新在家88-1

TEL. 079-425-0810



院長 小川 豊 先生

当院はJR東加古川駅の南、徒歩10分の所に1981年3月に開院しました。開院当時は周りを田んぼに囲まれ、カエルやカブトエビが沢山いましたが、今は住宅地となっています。開院から36年経ち、昨年春に2度目の改築を行い、待合室を拡張、完全バリアフリー、車椅子対応トイレとなっています。地域性から、ほとんどの方が車で来られますので、駐車場は50台用意しています。

当院では開院当初からのスタッフも居り、ベテランばかりですので、安心して来院いただけると思います。皮膚科全般の診療を行っていますが、詳細な検査が必要であったり、入院治療が必要な場

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～12:00	●	●	●	—	●	—	—
午前 9:00～13:00	—	—	—	—	—	●	—
午後16:00～19:00	●	●	●	—	●	—	—

合、手術が必要な場合等は、市民病院皮膚科や形成外科に紹介させていただいています。また寝たきりの方等の往診を、近隣の地域では対応可能ですので、相談いただければと思います。



くどう内科クリニック

診療科 循環器内科／内科

駐車場台数 30台

所在地 加古川市野口町坂元1029

TEL. 079-425-0005



院長 工藤 順弘 先生

平成22年5月に加古川市野口町で開業し、現在8年目になります。当院はJR加古川駅と東加古川駅のちょうど中間に位置し、また東播磨道に面しております。駐車場も広く、車でのアクセスは便利です。また診療時間も午前診4時間、午後診3時間と長めにとり、受診しやすい環境を整えています。

私は平成9年に医学部を卒業後関連病院に勤務し、その後平成17年4月～平成22年3月までの5年間、神鋼加古川病院循環器内科に勤務しておりました。ここ加古川は家内の地元でもあり、第二の故郷と認識しております。また神鋼加古川病院勤務時代は加古川エリアの循環器疾患、特に不整脈を中心とする診断と治療に携わり、医師としての礎を築く事ができました。加古川中央市

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:30～12:30	●	●	●	●	●	●	—
午後16:00～19:00	●	●	●	—	●	—	—

民病院となった現在も多くの先生方と交流があり、その経験と人脈を生かして地域医療に寄与し、患者さんに貢献したいと願っております。

